

Endometrial endometrioid carcinoma, grade 1, is more aggressive in the elderly than in the young

蜂須賀, 一寿

<https://hdl.handle.net/2324/4772302>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	蜂須賀 一寿			
論文名	Endometrial endometrioid carcinoma, grade 1, is more aggressive in the elderly than in the young			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	江藤 正俊
	副査	九州大学	教授	馬場 英司
	副査	九州大学	教授	岩城 徹

論文審査の結果の要旨

申請者らは臨床病理学的事項および子宮体癌の分子学的分類に基づいた代用マーカーによる免疫組織化学的事項を用いて高齢者における子宮体部類内膜癌，G1の特徴を明らかにすることを目的として研究を施行した。申請者らは長期予後を確認できた子宮体部類内膜癌，G1の268例を年齢により3群 (<40歳: n=24, 40-59歳: n=169, ≥60歳: n=75)に分けて、後方視的に解析を行った。高齢者 (≥60歳)の類内膜癌，G1では深い筋層浸潤を有意に多く認め、扁平上皮化生および前癌病変である子宮類内膜上皮内腫瘍を有意に少なく認めた。またp53蛋白異常発現を有意に多く認めた。予後解析では、多変量解析において高齢 (≥60歳)とFIGO 2009 stageが独立した無増悪生存期間の予後不良因子であった。高齢者の類内膜癌，G1は若年者の類内膜癌，G1と比較してより侵襲的であり、高齢は独立した予後不良因子であった。以上の結果より申請者らはtype 1の子宮体癌を年齢に基づいて、若年発生、緩徐に進行するtype 1aと高齢発生、より侵襲的なtype 1bに分類することを提唱した。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。